

風土に根ざした

古来からの風土に根ざした勝れた文化社会的に価値のある遺跡、あるいは文化し、これをひとつの地域の産業として伸とではないでしょうか。

伝 統 工 芸



▲張り子人形(宇土市図書館所蔵)



▲知事から表彰を受ける坂本さん



▲伝統文化の守り手坂本カツさん(82歳)

宇土で張り子がつくられるようになったのは明治初期、坂本さん宅に寄宿した広島の夫婦が手ほどきしたのがその始まりという。八代市宮地産の「すぎがえし」という和紙を七、八枚のりづけして重ね、木型にはめて乾燥させる。木型からはずして形を整えた後、胡粉という白い顔料を全体に塗り、乾かし、その上に赤・黄・みどり等の顔料で模様づけをし完成させる。すべて手作業。種類十五。製作者の坂本カツさんは八十二歳。今日まで七十年間ひたすら「張り子人形」をつくりつづけてきた。去る三月三十一日伝統文化の守り手として、他の五氏、九団体とともに顕彰された。

宇土の張り子人形

(宇土市本町)

伝統文化を大切に

伝統というものは大事にしたいものの保存。野趣に満ちた伝統工芸を掘り起ばすこと。いづれも大変に意義のあるこ

文 化 財



くたま 久玉城(牛深市久玉町) — 県指定史跡 —

熊本県内には中世の城跡が400ぐらい残っていますが、久玉城はその中でも指折りの名城で、概して中世の城は石垣を有しないのが普通ですが、この城には、久玉浦に面して堅固を誇る長さ45米・高さ5米の類まれなる石垣があります。さらにこの外、自然の地形を巧みに利用した数々の遺構があり、私達に当時の城の様子を伝えてくれます。

48年に中世の城跡としては、第1号の県指定史跡となり、斯学の注目をあびています。



大慈寺の層塔・宝篋印塔・宝塔

(熊本市野田町) — 県重要文化財 —

大慈寺は、およそ700年前に、寒巖義尹(後鳥羽天皇皇子、曹洞宗の高僧)によって開かれた由緒ある寺院です。

境内の6基の石造物は、県指定の重要文化財で、鎌倉時代のもと考えられます。層塔のうち、九重塔(写真1)は、凝灰岩製、永仁5年(1297)の銘をもち、堂々としています。十重塔(写真2)は、花崗岩製、無銘、四面に仏像が彫られており、整った塔姿は、見事です。宝篋印塔のうち、凝灰岩のものは、開祖寒巖義尹の墓塔(写真3)といわれ、花崗岩の2基(写真4)は、全く同形で、優美な姿を誇ります。

他に、鎌倉銘の宝塔があります。